

想 青 学 園
(前 期 課 程)

学校生活についてのアンケート調査結果

福山市教育委員会事務局
管理部学校再編推進室

2024年（令和6年）7月

目 次

1	アンケート調査の概要	1
2	第1回アンケート調査報告後の取組	2
3	第2回アンケート調査の結果	
	(1) 考察及び今後の取組	
	ア 児童	4
	イ 保護者	7
	ウ まとめ	10
	(2) アンケート集計	
	ア 児童	12
	イ 保護者	15
	ウ 主な記述回答	16
4	アンケート内容	23

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

少子化に伴い学校が小規模化する中、子どもたちに主体的・対話的で深い学びを通して、必要な力「21世紀型“スキル&倫理観”」を育むことができるよう、一定の集団規模のより良い学びの環境づくりのため、学校再編に取り組んでいる。

2022年（令和4年）4月に開校した想青学園において、児童及び保護者を対象に行ったアンケート調査から現状を把握し、成果と課題を明らかにすることで、これからの取組に活かしていくものとする。

なお、想青学園は、2023年（令和5年）2月にアンケート調査を実施しており、本調査は2回目である。

(2) 対象者（2024年（令和6年）2月時点

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
児童	358	267	74.58
保護者	358	93	25.98

(3) 調査方法

児童 … 担任教諭からアンケートの目的や問いについての説明を聞き、

1、2年生児童は、アンケート用紙で回答

3年生以上の児童生徒は学習用端末を活用して回答

保護者 … アンケート（依頼文）に記載のURL、QRコードから回答フォームにアクセスし回答

(4) 調査期間

2024年（令和6年）2月1日から同年2月16日まで

2 第1回アンケート調査報告後の取組

開校1年目、再編によりめざす姿である「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中で、子どもたちは、それぞれが努力し、着実に力を付け、成長していった。一方で、学校の取組への要望等が個別具体に出されたことから、学校と連携し、次のように取り組んだ。

(1) 教育内容の充実

約9割の児童が、授業について肯定的な回答をしていた。一方、約1割が否定的な回答をしていたため、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いを持ち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・国語、社会、算数・数学、理科、英語、芸術保体という6つの教科グループを立ち上げ、学習指導要領をもとに学習内容のつながりを考えたり、授業での子どもの様子から各教科の面白さや難しさなどを探ったりする研修を定期的に行った。
- ・内海・沼隈の多彩な地域資源を素材に探究的に学習する「S O S E I 学」で、地域の良さや課題を見つけ、それを地域に発信したり、解決策を実行したりした。

(2) 人間関係づくり

友だち関係が理由で学校が楽しくないと感じている児童がいたため、子どもたちが日常的に学校のあらゆる空間でふれあいながら学んでいけるよう、関わり合う場や環境を意図的に作り、学び合う集団づくり、お互いの違いを認め合える仲間づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・体育大会やS O S E I 祭などの学校行事で全校児童生徒と一緒に活動する、ランチルームで1年生と6年生と一緒に給食を食べる、1年生から9年生までの20人程度が一つの班になって自己紹介や9年生が考えた様々な遊びを楽しむ「縦割り交流デイ」など、児童生徒が関わり合う場、交流する場を設けた。
- ・言語・人文社会・数学・理科・音楽・アート&クラフト等のメディアスペースに置く教材等を工夫した。

(3) 地域とのつながり

「地域学習により学びが広がっている。もっと授業に取り入れてほしい」といった意見を踏まえ、子どもたちが地域に出て、体験を通して学ぶ教育活動の充実に取り組んだ。

(主な取組)

- ・S O S E I 学で、地域や地元企業等から「たくさんの人に内海の海を大切に

しようという思いを持ってほしい」「山本瀧之助といった人物をはじめ地域の文化や歴史の良さを地域に発信してほしい」などのミッションを受け学習を進めた。

- ・ S O S E I 祭において、地域から依頼されたミッションに対して、地域の課題解決に向けて考えた取組をプレゼンしたり、アイデアを商品化して販売したりして、参加者から意見・評価をもらった。

(4) コミュニティ・スクールを活かした教育活動

コミュニティ・スクールの理解が進んでいないことから、学校運営協議会において、学校運営方針について議論を重ねながら教育活動を進めた。

(主な取組)

- ・ S O S E I 学について、年間カリキュラムをもとに目標と育成する力を共有した上で、学びをより豊かなものにするためには何が必要か、表現力・共感力・チャレンジ精神といった育てたい力を付けるためには何ができるかを協議し、具体のミッションや体験活動を提案した。

3 第2回アンケート調査の結果

(1) 考察及び今後の取組

ア 児童

◆学校生活について

- 「学校が楽しい・どちらかと言えば楽しい」 91% (93%)

◆授業について

- 「新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 90% (92%)
- 「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 94% (95%)
- 「『分かった』『できた』と実感することがよくある・どちらかと言えばある」 88% (88%)

◆義務教育学校について

《新規》

- 「1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 82%
- 「かかわる つながる」を学校生活の中で実感することがよくある・どちらかと言えばある」 61%

※ () 内の数値は1回目のアンケート調査における回答の割合。以下同じ。

◆学校生活について

○考察

9割以上の児童は「学校が楽しい」と答えている。その理由は「授業が楽しい」「班の人と意見を出して話し合うことが楽しい」「クラスや班の人と取り組むイベント等がすごく楽しい」「学校が新しく、言語や理数など面白いメディアが多いから」などであった。

環境が大きく変化した旧内浦・内海・能登原・常石小の児童（3～6年生）については、90%が「楽しい」と答えている。その理由は「みんなと意見や疑問を言い合ったり、実験したりすることが楽しい」「様々な人とふれ合うことができ、班の人と協力して楽しく学習できる」などであった。

児童の多くは学校生活を楽しく感じていることが分かる。義務教育学校のメリットを生かした集団づくり・仲間づくりが進められる中で、子どもたちは伸び伸びと学んでいる。

1割弱の児童は「学校が楽しくない」と答えている。その理由は「授業についていけない」「心の底から話せる友だちがいなくて寂しい」「小中一貫校なので中学生に全部してもらえばかりで役割がなくなっているから」などであった。

○今後の取組

学校が楽しくないと感じている児童には、その理由を踏まえ、子どもの様子を見ながら、対話を大切にした個別の支援を行っていく。9年間の学びを一体的に捉える中で、前期課程と後期課程、前期・中期・後期といった区切りをつけた取組を行

い、6年生がリーダーシップを発揮できる場や学年に応じた役割を持てる場をつくっていく。

◆授業について

○考察

約9割の児童は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しい、『分かった』『できた』と実感することがあると肯定的な回答をしている。その理由は「新しいことを知りたい」「考えるのが楽しい。いろいろな考えがあって楽しい」「国語、図工等の授業が楽しい」「苦手な授業もあるけど知識を深めるのは嬉しい」などであった。

学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に向け、友だちと対話し、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりに取り組んでいる。S O S E I 学では、フィールドワークやインタビューを通して地域の人々と交流し、地域のためにできることを考え、実践することに取り組んでいる。

子どもたちは、授業を楽しく感じ、学ぶ過程で「分かった・できた」と実感していることが伺える。

約1割の児童は否定的な回答をしている。その理由は「いろいろな考えを聞きたいので、みんなに発言や発表をしてほしい」「もっと集中する人が増えたら良い」「理解できていないのに、授業を先々進めることを改善してほしい」などの理由であった。

○今後の取組

改めて、子どもたちの学ぶ姿を見的过程中で、S O S E I 学や各教科をつながえながら、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いをもち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいく。

◆義務教育学校について

○考察

8割以上の児童は「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校についていいなと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「児童生徒が多いほど友だちが増える」「いろいろな学年と生活して新たに得られるものがある」「中学生（後期課程）がいることで目標が分かる。部活や後期課程の活動の様子を見ることができる」などであった。

2割弱の児童は否定的な回答をしている。その理由は「後期生が少しこわい」「6年生を終えても後期生になる実感がわからない」であった。

また、6割以上の児童が「想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学園生活の中で実感すること」があると答えている。その理由は「いろんな学年の人、地域の人と関わることができ、見学に行つて知らないことを知り、分かることができた」「授業や行事で地域の人から教えてもらつたり、一緒に活動したりするときに感じる。広がった地域のことをしっかりと学べる」「上級生が下級生のためにい

ろいろなことを企画し、一緒に遊んでくれる」などであった。

1年生から9年生までが一つの校舎で学校生活を送り、日常的な異学年交流によって下級生は上級生を手本にし、上級生は下級生を可愛がっている様子が伺える。そして、S O S E I 学や学校行事、登下校の見守りなど多くのふれあいを通して、再編した地域の方々とかかわり、つながりながら、子どもたちが成長していつていることが分かる。

○今後の取組

前期課程から後期課程にスムーズに移行できるメリットを活かす中で、前期課程修了の節目を感じることでできる工夫をしていく。そして、引き続き、子どもたち同士、子どもたちと地域が「かかわる つながる」を実感できる交流や学びを進めていく。

記述回答

(想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したこと)

○考察

「人が多くなったが、コミュニケーションを頑張った」「前より勉強にやる気が出た。友だちと意見を交流する楽しさに気付いた」「何にでもチャレンジするようになった」などと答えている。

友だちとコミュニケーションを図り、学び合いながら、意欲的に学校生活を送っていることが伺える。

(困っていること)

○考察

「嫌なことを言われる」「友だちが少ないから、みんなともっと仲良くなりたい」「授業中うるさい」などと答えている。

○今後の取組

状況を確認し、個別に必要な対応を行っている。引き続き、個に応じた支援を行うとともに、多様な意見を交流し合う授業を通して、他者を大切にしようとする意識を高めていく。

(前の学校のときよりも学校の規模(集団規模)が大きくなって、感じていること)

※3年生以上の旧内浦・内海・能登原・常石小児童

○考察

「話し相手や友だちが増えて嬉しい」「相談できる人ができた」「前の学校よりも大きなイベントができる」などの意見があった。

多様な友だちと関わりながら、社会性を育んでいることが分かる。

一方、「まだ慣れないところがあるから前の学校がいい」「友だちが増えてもあまり嬉しくない」という回答もあった。

○今後の取組

日常の会話を通して、子どもたちの困り感を把握できるよう働きかけをしている。

引き続き、個別に児童と話をするなど、様子を見ながら必要な対応を行っている。

イ 保護者

- 「子どもは学校生活を楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている」 94% (94%)
《新規》
- 「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、良いと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 78%

(学校生活)

○考察

9割以上の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と答えている。その理由は「学校であったことを嬉しそうに話してくれる」「発表会や運動会に向けての練習を張り切っている」「S O S E I 祭など、子どもたちが自分たちで考えて活動している」などであった。

1割弱の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしていない」と答えている。その理由は「友だち関係で悩んでいる」「学校に行きたがらないから」などであった。

保護者は、子どもから話を聞き、その表情や態度から、楽しく過ごしていると安心されたり、子どもの成長を感じとられたりしていることが伺える。

○今後の取組

学校生活に悩み等がある児童には、継続して対話をしながら、個に応じた支援を行っていく。

(義務教育学校)

○考察

約8割の保護者は「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校についていいと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「様々な年齢の子どもと関われる」「後期課程の先輩たちの頑張っている姿を見ることができて刺激になる」「後期課程になったらこうしたいという明確な目標が立てやすい」「困ったとき後期課程の生徒が助けてくれており、自分もこうなりたいと優しさや思いやりが生まれている」「後期課程の先生が前期課程の児童も指導してくれており、後期課程になる不安が減少できる」などであった。

約2割の保護者は否定的な回答をしている。その理由は「あまり後期課程とはかわりがないと言っていたから」「小学校の卒業式がないから」「運動会は、前期課程と後期課程で分けた方が良い。人数が多すぎてどこにいるか分からない」などであった。

保護者は、日常的な異学年交流により、上級生と下級生相互に良い効果があることを感じていることが分かる。

○今後の取組

学校行事や式典については、全児童生徒が関わり合いながら学ぶ良さを実感できるような取組を進めていく。

記述回答

(教育活動(授業、行事等の取組)について、良いと思うことや課題に思うこと)

○考察

良いと思うこととして「地域の事を積極的に学習する機会があり、自分の地域が素敵な地域だと実感できる」「参観日やS O S E I 祭など、保護者が学校に行って子どもの学習を実際に見る機会が多い」「S O S E I 学は特色があって、自分も一緒に学びたいくらいだ」「上級生と学び、憧れを抱くことが、自分を高め努力する意欲につながっている」「子どもの好きや得意、やりたいことを大切にすることを前提に教育している」などの意見があった。

課題と思うこととして「前期課程修了の儀式がないため、子どもも親も切り替えができない」「本来なら6年生は最高学年で下級生をまとめていくイメージだが、9年生がいるので責任感が全くない」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域の方々の協力を得ながらS O S E I 学や各教科等の教育内容の充実を図り、「子ども主体の学び」を推進するとともに、義務教育学校のメリットを生かした教育活動を進めていく。

前期課程から後期課程への進級時に行っている修了証書授与式を、より節目を実感できるようにしていく。学校行事のあり方については、全校で行うもの、前期・後期で分けて行うものなど、行事の目的や教育効果、保護者の意見等を踏まえる中で継続的に検討していく。

(想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、これまでに感じたこと)

○考察

「体育祭で全学年一丸となって応援合戦をし、各競技に臨んでいたこと」「上級生ととても仲が良く、縦のつながりがいいと感じる」「普段なら小学生と中学生がかかわることはないが、想青学園だからこその縦のつながりで関わり合っている」「地域とのかかわり、教科間のつながりのある学習をしている」「S O S E I 祭で、学習したことをよく分かるように説明していて、地元のことをよく勉強していると感じた」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、『かかわる つながる』を大切にした学校運営・教育活動を進め、保護者に主体的に教育活動に参画していただけるよう取り組む。

(想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、その時保護者がされたかかわり〔応援や励まし、教員への相談〕など)

○考察

「友だちとの関わり方を本人なりに試行錯誤しながら学んでいる。親としては、話を聞いて、本人が言葉にすることで思いに気付けるようにした。」「自分で考え意見を言えるようになったので少し安心している」「友だちが増えていろいろな性格

の児童がいることで、対応の仕方や考え方が大人になった」「友だちとの関わりで悩む事が多いので、子どもの話をよく聞くようにしている」「授業で分からないことがあった時は、授業終了後に先生や友だちに聞いてみるのはどうか提案したところ、それを実践し、苦手な教科でも発表するようになり、失敗を恐れなくなったことに成長を感じた」などの意見があった。

子どもの成長を温かく見守り、頑張っていることを褒め、励まし、応援して下さっている保護者の姿が伺えた。

(今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと)

○考察

「縦割り学習を増やすなど学校の良いところを活用し、学校独自の色を出して、想青学園で学んでよかったと思える教育を望む」「身だしなみが乱れている生徒がおり、影響を受けないか心配」「後期課程の生徒は前期課程の児童のお手本になれるような立ち振る舞いを心掛けてほしい」などの意見があった。

○今後の取組

想青学園で学んでよかったと思ってもらえるよう、義務教育学校のメリットや多彩な地域資源のある校区を活かした教育内容の充実に、引き続き取り組んでいく。また、この間学校のきまりや生徒指導規程を児童生徒が主体になって考え、行動化できるよう取り組んできている。そうした取組過程も含め保護者と一緒になって子どもたちの育成を図る。

(前の学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなって感じていること)

※3年生以上の旧内浦・内海・能登原・常石小児童の保護者

○考察

「子どもは、クラスの仲間が増えて、いろいろと刺激を受け成長していると感じるが、先生方や保護者同士の関わりが少ないため、大人も子どもも交えて交流する機会があるといい」「前の学校では、低学年は同じ教室で勉強していたので集中して学べなかったし、嫌なことがあっても逃げ場がなかったので、想青学園に来て本当に良かったと思っている」「大人数での学校生活で中身が薄くなり、今までのような濃い学校生活がなくなった」などの意見があった。

多くの保護者は、子どもが友だちと関わりながら成長している姿を通して、学校規模が大きくなったことを肯定的に捉えている。一方で、子ども同士や保護者同士の関わりの濃さが薄くなったと感じている。

○今後の取組

引き続き、「かかわる つながる」ことを大切にした教育活動・交流の場の充実に努める。

(コミュニティ・スクールについて、教育活動を充実させるため、保護者（地域）としてどんなことができると思うか、また子どもたちの学びにどうかかわっていききたいか)

○考察

「自分たちの住んでいる地域で盛んな農業、漁業、工業など自慢できることを探して調べるなど、親も一緒に学んでいきたい」「先生がかかわるのが難しい場面や忙しくて人手がほしい場合など、できることはなんでもやっていきたい」「もっとコミュニティ・スクールであることを、保護者・地域に知ってもらう必要がある」などの意見があった。

○今後の取組

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのか、目標やビジョンを共有し、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育てていくものである。地域とともにある学校づくりを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらには参画へと膨らみ、子どもや学校が抱える諸課題の解決や地域資源を活用した教育内容の充実などにつながる。多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていくことができるよう、学校運営協議会でしっかりと議論しながら取り組んでいく。

(3) まとめ

開校2年目の昨年度、1回目のアンケート結果を踏まえ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、また、子どもたちが「学びが面白い」と実感できるように、教育委員会と学校が密に連携し、指導主事が学校を継続して訪問するなど、授業づくりや個に応じた支援などに取り組んだ。

2回目のアンケート結果では、住んでいる地域に関係なく仲間づくりができてきているとともに、友だち関係がうまくいかないといった子どもには、引き続き、個別の支援が必要であることが分かった。

想青学園は、地域とともにある学校づくりのパイロット校として、義務教育学校のメリットとコミュニティ・スクールの仕組みを活かす中で、「かかわる つながる」ことを大切に学校づくりを進めている。独自教科のS O S E I学では、学校運営協議会の委員が学校と地域をつなぎ、内海・沼隈地域の多彩な地域資源を学習素材として、教育内容の充実を図るとともに、地域貢献にもつながる探究学習に取り組んでいる。

また、教職員は、授業実践力を高めるため「広島県叡智学園の社会科ユニットデザインから学ぶ研修」や「STEAM型探究学習の研修」などを受講し、子どもが自ら課題を探究する授業に向けて、教材研究、授業実践、検証、改善等を行っている。

昨年度は、全国から15団体134人の視察があり、学校図書館を始め、人文社会、理科メディアなど、子どもの興味を喚起する場、高性能パソコンや3Dプリンターを設置しているデジタルラボ等の施設に感動し、子どもが立体模型を制作した

り、動画編集したりする姿、学校のあらゆる空間で、疑問を出し合いながら意欲的に学んでいる姿を見て、高い評価をいただいている。

教育委員会は、学校とともに、多様な友だちと学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、子どもたちが知っていることを使って考えると、分かることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ねていけるよう、今後も学びを中心に据えた取組を着実に進めていく。

(2) アンケート集計

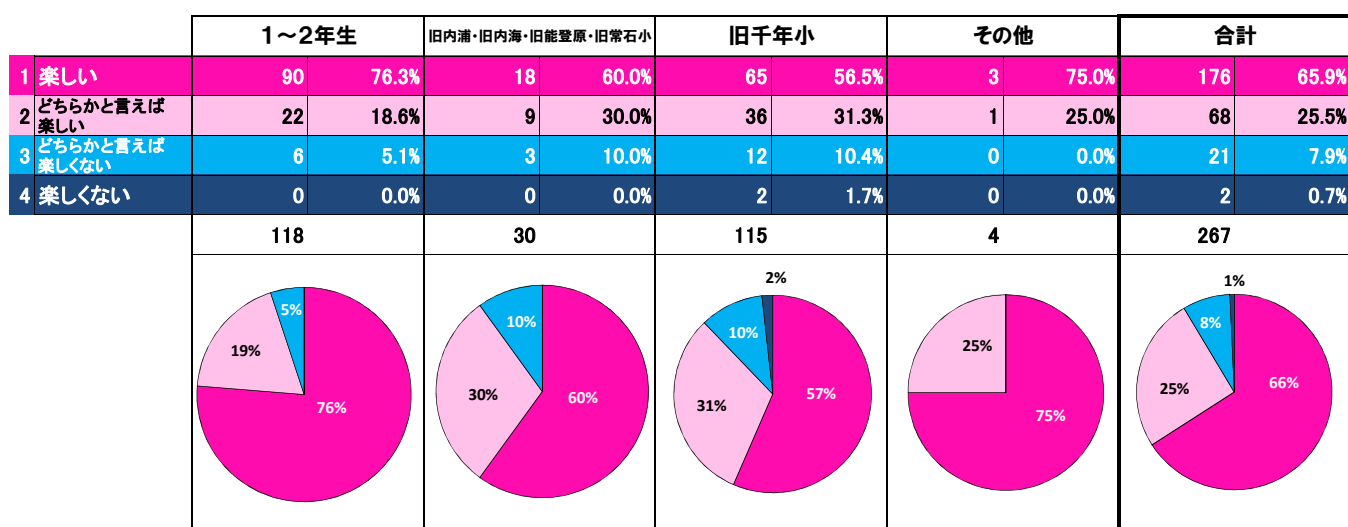
【グラフの見方】

※ 合計267人の児童が回答しています。

(1～2年生 118人／3～6年生 旧内浦小 0人、旧内海小 12人、
旧能登原小 15人、旧常石小 3人、旧千年小 115人、その他(学区外)4人)

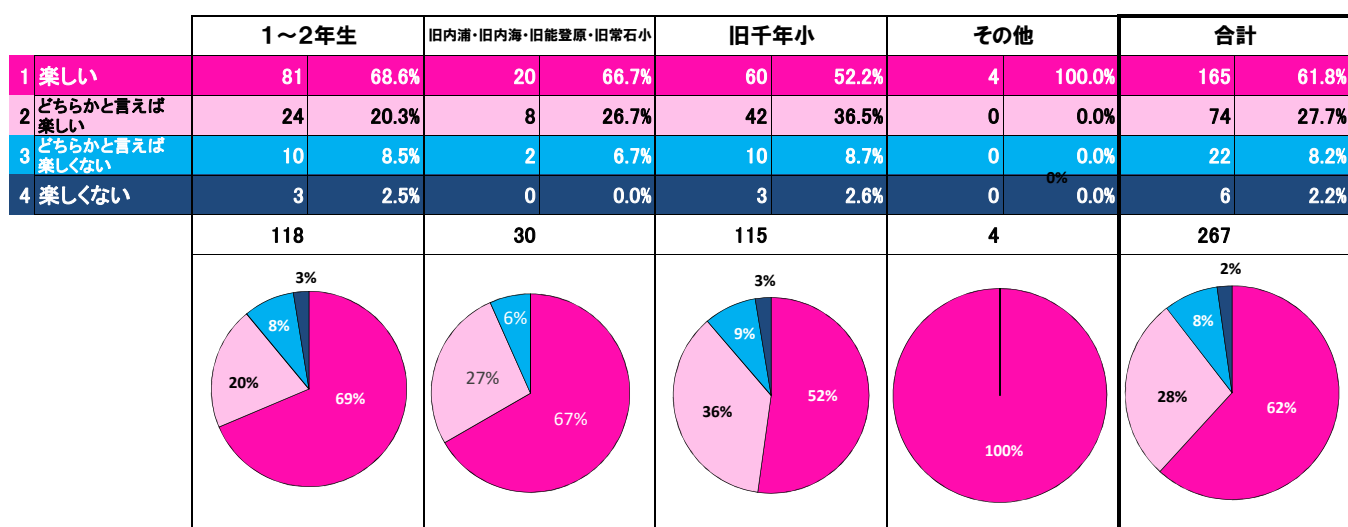
ア 児童

学校は楽しいですか。



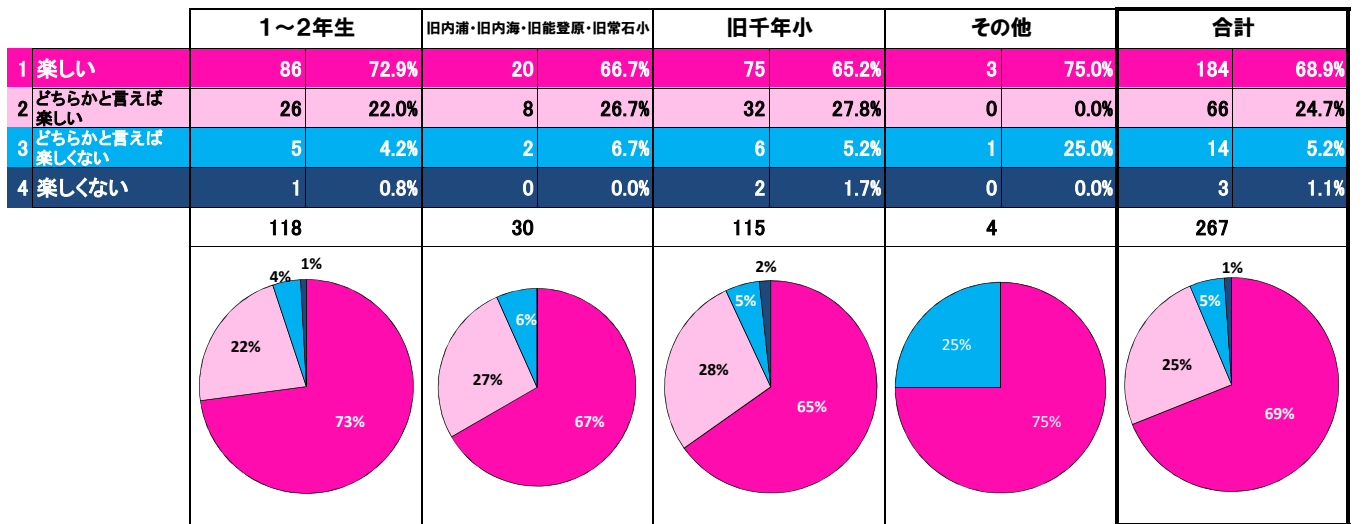
「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合は、全体の91%である。
「楽しくない」「どちらかと言えば楽しくない」と回答した児童の割合は、全体の9%である。

新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しいですか。



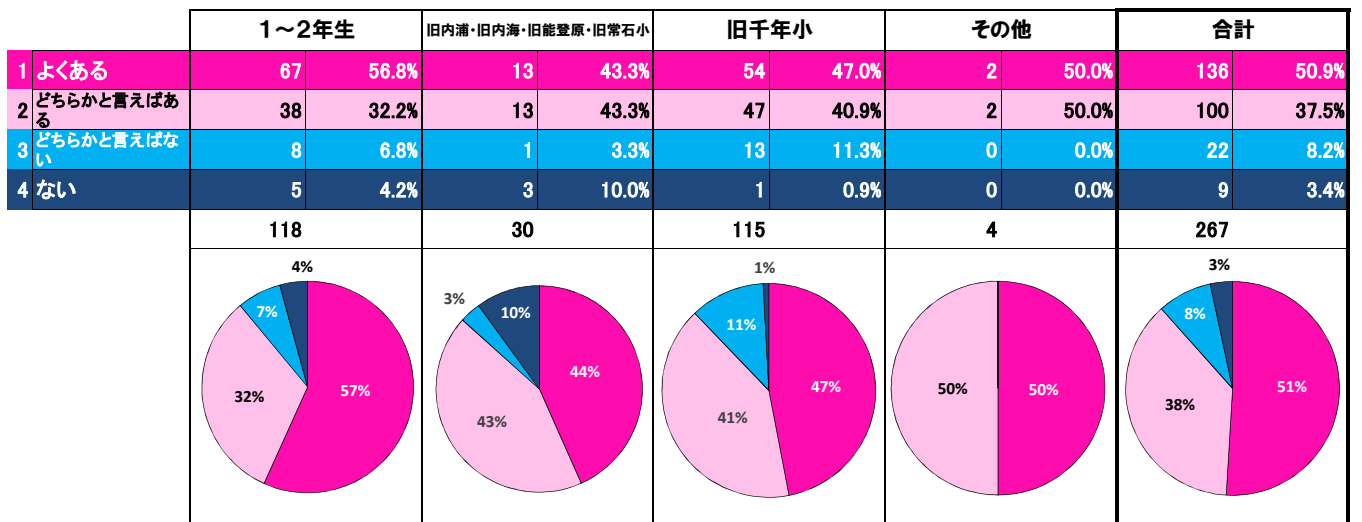
「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合は、全体の90%である。
「楽しくない」「どちらかと言えば楽しくない」と回答した児童の割合は、全体の10%である。

自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しいですか。



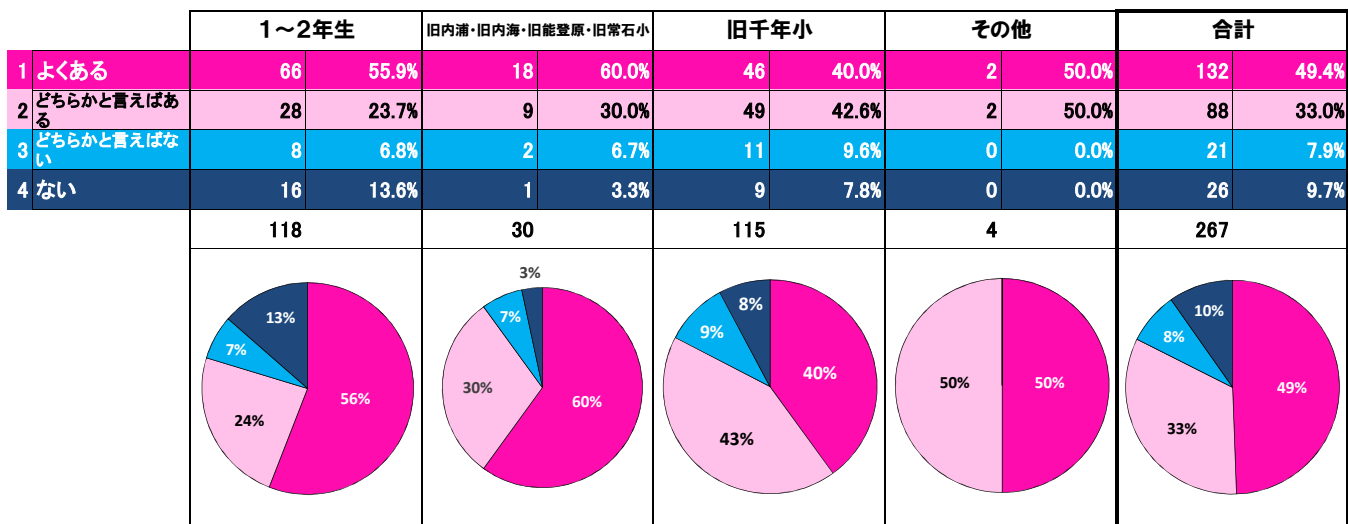
「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合は、全体の94%である。
「楽しくない」「どちらかと言えば楽しくない」と回答した児童の割合は、全体の6%である。

分かった」「できた」と実感することがよくありますか。



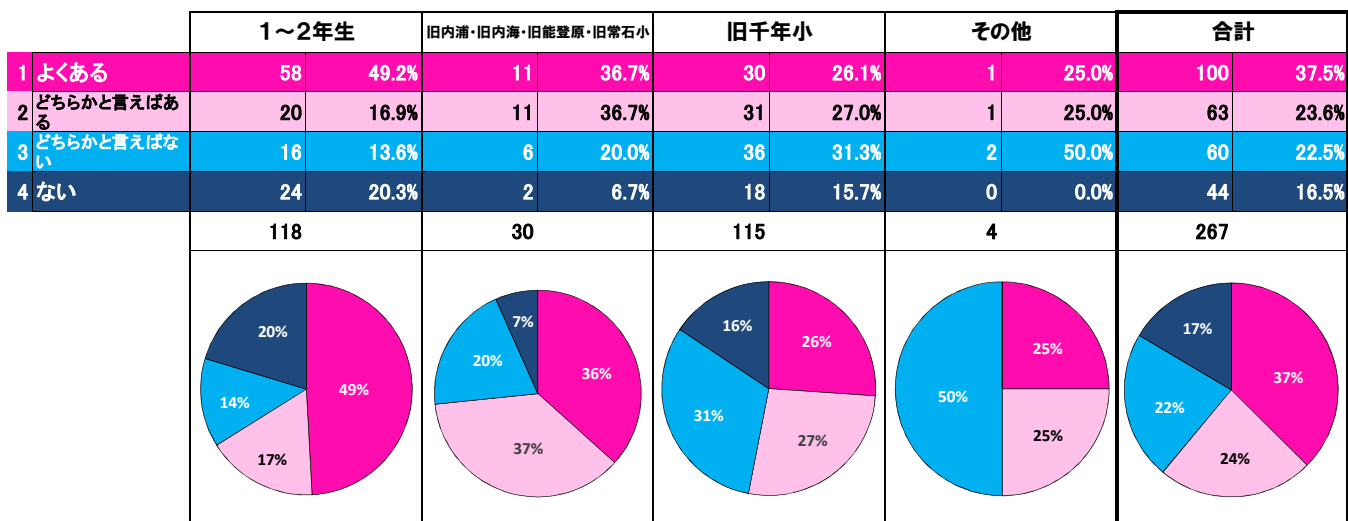
「よくある」「どちらかと言えばある」と回答した児童の割合は、全体の88%である。
「ない」「どちらかと言えばない」と回答した児童の割合は、全体の12%である。

いい1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について



「よくある」「どちらかと言えばある」と回答した児童の割合は、全体の82%である。
「ない」「どちらかと言えばない」と回答した児童の割合は、全体の18%である。

理想の学校生活の中で実感していることがわかる『つながる』を



「よくある」「どちらかと言えばある」と回答した児童の割合は、全体の61%である。
「ない」「どちらかと言えばない」と回答した児童の割合は、全体の39%である。

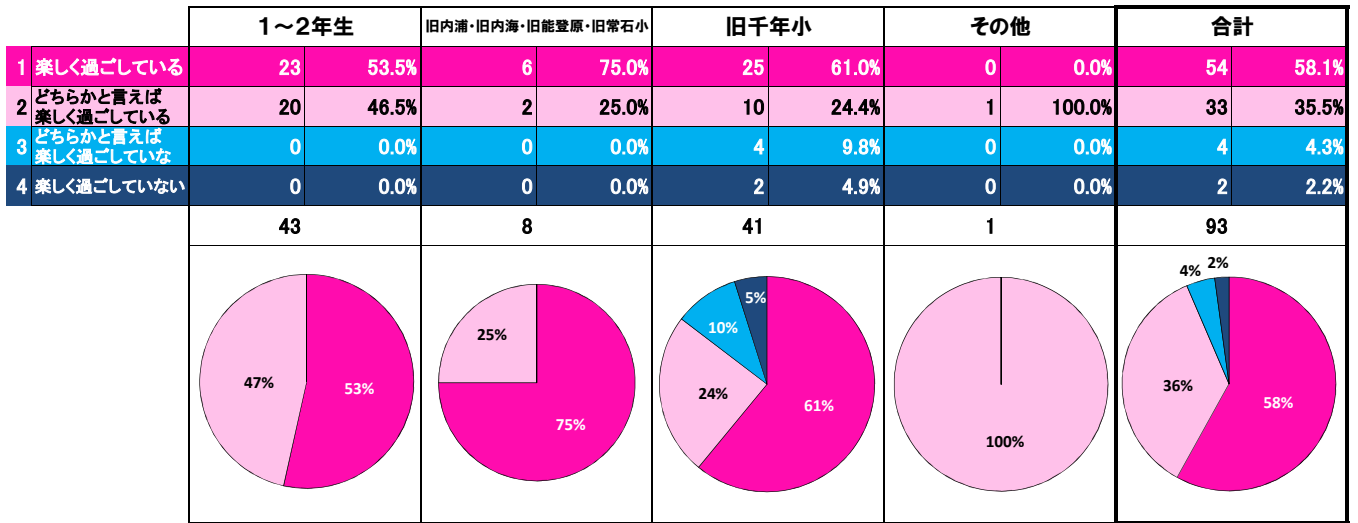
【グラフの見方】

※ 合計93人の保護者が回答しています。

(1～2年生43人／3～6年生 旧内浦小 0人、旧内海小 1人、
旧能登原小 5人、旧常石小2人、旧千年小 41人、その他(学区外) 1人)

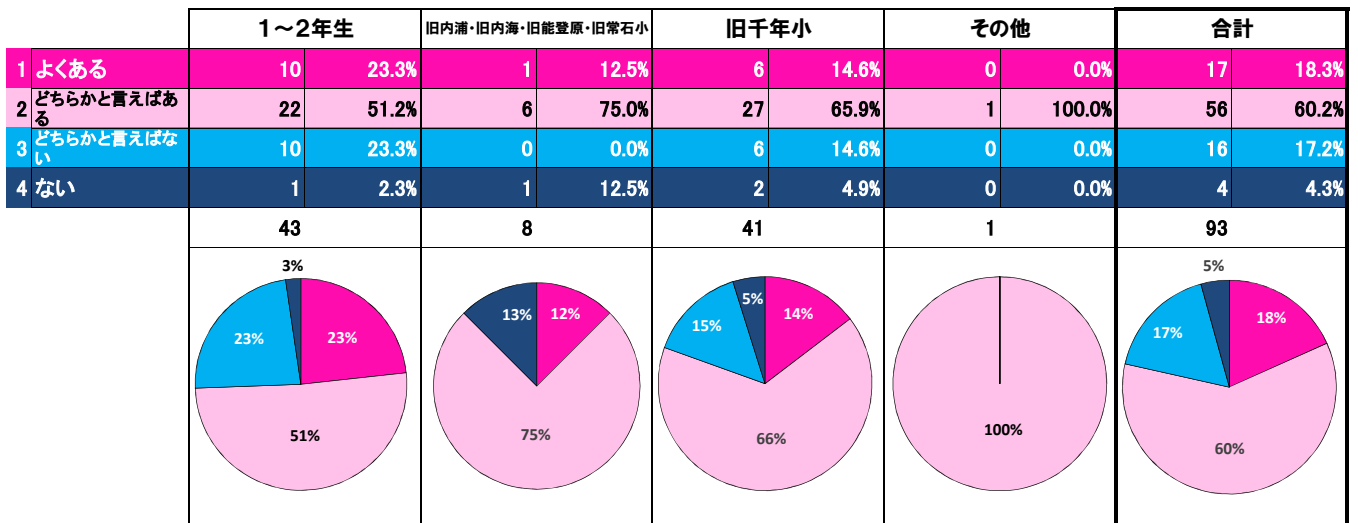
イ 保護者

子どもは学校生活を楽しく過ごしていますか。



「楽しく過ごしている」「どちらかと言えば楽しく過ごしている」と回答した保護者の割合は、全体の94%である。
 「楽しく過ごしていない」「どちらかと言えば楽しく過ごしていない」と回答した保護者の割合は、全体の6%である。

いい1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について



「よくある」「どちらかと言えばある」と回答した保護者の割合は、全体の78%である。
 「ない」「どちらかと言えばない」と回答した保護者の割合は、全体の22%である。

ウ 主な記述回答

児童

■ 【全員】学校が楽しい理由

- ・ 班の人と意見を出して話し合うことが楽しい。
- ・ クラスや班の人と取り組むイベント等がすごく楽しい。
- ・ 学校が新しく、言語や理数など面白いメディアが多いから。
- ・ 学校の勉強が楽しいから。
- ・ 授業が楽しいから。
- ・ いろんなことを学べるから。
- ・ 自分の知らないことを知ることができ、学んで力をつけられるから。
- ・ みんなが優しく、協力できるから。
- ・ 友だちと勉強したり遊んだりできるから。
- ・ 下級生と遊んだり話したりできるから。
- ・ 図書室に行く時、わくわくするから。

■ 【全員】学校が楽しくない理由

- ・ 授業についていけない。
- ・ 心の底から話せる友だちがいなくて寂しい。
- ・ 小中一貫校なので中学生に全部してもらえばかりで役割がなくなっているから。
- ・ 嫌いな教科があるから。
- ・ 勉強が嫌いだから。
- ・ 面倒くさい。
- ・ 人が多くてやりたいことがあまりできない。
- ・ 学校というみんなで協力して学ぶことが得意ではないから。周りの価値観と自分の価値観が合わないから。

■ 【全員】授業についての思いや考え

- ・ 新しいことを知りたい。
- ・ 考えるのが楽しい。いろいろな考えがあって楽しい。
- ・ 国語、図工等の授業が楽しい。
- ・ 苦手な授業もあるけど、知識を深めるのは嬉しい。
- ・ いろいろな考えを聞きたいので、みんなに発言や発表をしてほしい。
- ・ もっと集中する人が増えたら良い。
- ・ 理解できていないのに、授業を先々進めることを改善してほしい。
- ・ 算数と理科をコラボした授業が楽しかった。
- ・ 友だちと話し合いをしたい。もっと班での話し合いを増やしてほしい。
- ・ 「わからない」と言えない子でも、簡単に先生に伝えられるように、授業終わりにアンケートをしたらいいと思う。
- ・ 復習を増やしてほしい。

■ 【全員】1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいなと思うこと

- ・児童生徒が多いほど友だちが増えるから。
- ・いろいろな学年と生活して新たに得られるものがある。
- ・中学生（後期課程）がいることで、目標が分かる。部活や後期課程の活動の様子を見ることができるから。
- ・後期課程との交流がしやすい。優しくしてもらえるから。助け合うことができるから。
- ・全校集会のとき中学生が最初に入って静かな雰囲気を作ってくれているから。
- ・学校が小学生の考えだけではなく、中学生の考えも加わって成り立っていくから。
- ・担任の先生がいなくても後期の先生が教えてくれるところがいいところだと思う。
- ・前期と後期の人達と一緒にいることで、皆で大きなイベントをすることができるから。
- ・委員会の時、前期の人が困っていると後期課程の人が助けてくれるから安心。

■ 【全員】 1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいなと思わないこと

- ・後期生が少し怖いから。
- ・6年生を終えても後期生になる実感がわからない。
- ・人数が多いから感染症が流行しやすい。

■ 【全員】 想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学校生活の中で実感すること

- ・いろんな学年の人、地域の人と関わることができ、見学に行つて知らないことを知り、分かることができた。
- ・授業や行事で地域の人から教えてもらったり、一緒に活動したりするときに感じる。広がった地域のことをしっかりと学べる。
- ・上級生が下級生のためにいろいろなことを企画し、一緒に遊んでくれる。
- ・他の学校とは違って、たくさんの地域・学校の人に来ていて、多くのいろいろな人との関わりを持つことができている。
- ・「S O S E I 祭」の時に地域の人と関わったとき、S O S E I 学の授業に取り組んでいるときに感じた。
- ・異学年での授業交流。
- ・行事やイベント（S O S E I 祭）などで1年生から9年生までの人たちと関わるから。
- ・小中一貫校だから中学生の心強い意見と委員会などで交流できるから。
- ・後期課程の人が教室に来て仲良くしてくれる。
- ・どの学年も笑顔で挨拶をしてくれる。

■ 【全員】 想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと（変化）、自分でも努力したこと

- ・人が多くなったが、コミュニケーションを頑張った。
- ・前より勉強のやる気が出た。友だちと意見を交流する楽しさに気づいた。
- ・何にでもチャレンジするようになった。
- ・読む力。友だちと話す力。
- ・算数が前より得意になった。
- ・不得意なことや難しい問題でも諦めずにやった。

- ・自分で考えるようになった。協力して考えるようになった。
- ・自主学習で、習った場所をしっかりと復習できるようになった。
- ・他の学年との交流することが大事だということを改めて実感した。
- ・人数が多くなって「間違えたらどうしよう」という気持ちもあったが、分かりやすく発表するよう努力した。
- ・色々な意見を言えるようになった。
- ・社会メディアなどのメディアがあるから、より勉強に興味を持つようになった。
- ・地域とのふれあいが多くなった。

■ 【全員】困っていること

- ・嫌なことを言われる。
- ・友だちが少ないから、みんなともっと仲良くなりたい。
- ・授業中うるさい。
- ・廊下を走っている人がいる。
- ・後期の人たちがこわい。後期課程になることが不安。
- ・7年生から9年生との交流が少ない。

■ 【3年生以上の旧内浦小・旧内海小・旧能登原小・旧常石小の児童】旧小学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなったが、どのように感じているか

- ・話し相手や友だちが増えて嬉しい。
- ・相談できる人ができた。
- ・前の学校よりも大きなイベントが出来る。
- ・まだ慣れないところがあるから前の学校がいい。
- ・友だちが増えても、あまり嬉しくない。
- ・楽しい。
- ・最初は学校生活に慣れない部分もあったけれど、段々と慣れてきた。
- ・どっちもいい。

保護者

■ 【全員】子どもが学校生活を楽しく過ごしていると思う理由

- ・学校であったことを嬉しそうに話してくれる。
- ・発表会や運動会に向けての練習を張り切っている。
- ・S O S E I 祭など、子どもたちが自分たちで考えて活動している。
- ・学校で面白かったことや勉強したことを教えてくれる。
- ・楽しみな授業があると言っている。
- ・友だちとよく遊び、勉強も意欲的にやっている。
- ・少しずつ自信がついている。
- ・先生が優しいから。
- ・社会見学の機会が多く、理科の実験も楽しくできている様子。

- ・校舎内が広く、子どもたちの学校での生活が過ごしやすそうだから。

■ 【全員】子どもが学校生活を楽しく過ごしていないと思う理由

- ・友だち関係で悩んでいる。
- ・学校に行きたがらないから。
- ・学校に行けないから。

■ 【全員】１年生から９年生までと一緒に学ぶ学校について、いいと思うこと

- ・様々な年齢の子どもと関われる。
- ・後期課程の先輩たちの頑張っている姿を見ることができて刺激になる。
- ・後期課程になったらこうしたいという明確な目標が立てやすい。
- ・困ったとき、後期課程の生徒が助けてくれており、自分もこうなりたいと優しさや思いやりが生まれている。
- ・後期課程の先生が前期課程の児童も指導してくれており、後期課程になる不安が減少できる。
- ・運動会などの行事を見ると、中学生までのイメージが児童も保護者も持ちやすい。

■ 【全員】１年生から９年生までと一緒に学ぶ学校について、いいと思わないこと

- ・あまり後期課程とはかかわりが無いと言っていたから。
- ・小学校の卒業式がないから。
- ・運動会は、前期課程と後期課程で分けた方がいい。人数が多すぎて子どもがどこにいるのか分からない。
- ・プールの時間が少な過ぎる。
- ・発達課題が違いすぎる。
- ・体育祭などでいえば学年の差がありすぎて、大きい子どもたちにとっては物足りないのではないか。
- ・後期の子に、何か言われたとか、からかわれたという話をよく聞く。

■ 【全員】教育活動（授業、学校行事等の取組）について、良いと思うこと

- ・地域の事を積極的に学習する機会があり、自分の地域が素敵な地域だと実感できる。
- ・参観日やS O S E I 祭など、保護者が学校に行って子どもの学習を実際に見る機会が多い。
- ・S O S E I 学は特色があって、自分も一緒に学びたいくらいだ。
- ・上級生と学び、憧れを抱くことが、自分を高め努力する意欲につながっている。
- ・子どもの好きや得意、やりたいことを大切にすることを前提に教育している。
- ・地域との連携及び他学年との交流。
- ・上級生や後期課程の生徒と関わる時間が多いこと。
- ・施設が広くてきれいな所、多種多様な取組。
- ・地域のことをみんなで考え課題などを発表したり、現地に行って実際に見て考えたりしていること。

- ・地域のお店や、山や海へと、自然のこと、地域の取組を知るための課外活動を積極的にしているところ。
- ・体育祭等で前期と後期の生徒と一緒に活動しているところ。
- ・開かれた雰囲気が素敵。
- ・メールなどで情報を細かく伝えてくれること。

■ 【全員】教育活動（授業、学校行事等の取組）について、課題と思うこと

- ・前期課程修了の儀式がないため、子どもも親も切り替えができない。
- ・本来なら6年生は最高学年で下級生をまとめていくイメージだが、9年生がいるので、責任感が全くない。
- ・1年生と9年生との年齢差で、行事が大変そう。
- ・グラウンドや遊具が整備されていない。
- ・駐車場に困る事があるので、配慮して欲しい。
- ・前期・後期共に、校外学習のマナーに気をつけるべき。
- ・地域や参観日での子どもたちを見る限りでは、さわやかなあいさつが少ないこと。
- ・運動会は、前期後期みんなでやるので、出る種目が少ないと感じた。
- ・特に2学期は行事が多く、子どもが勉強に集中できていないようだった。
- ・学ぶ習慣、宿題の少なさ。
- ・オープンな教室のため、隣のクラスから声が聞こえ、発表している生徒の声が聞こえにくい時がある。
- ・授業が面白くない。
- ・子どもの学力の差。
- ・先生が注意しても話を聞いていない子どもがいる。
- ・良くも悪くも一貫校となり上級生の影響を受けやすい。注意して観察する事も必要だと考える。
- ・配布物のプリント・お知らせなどのメール配信をもっと丁寧にして欲しい。

■ 【全員】想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、これまでに感じられたことがありますか。ある場合は、そのエピソードを教えてください。

- ・体育祭で全学年一丸となって応援合戦をし、各競技に臨んでいたこと。
- ・上級生ととても仲が良く、縦のつながりがいいなと感じる。
- ・普段なら小学生と中学生が関わる事はないが、想青学園だからこそその縦の繋がりで、関わり合っている。
- ・地域とのかかわり、教科間のつながりのある学習をしている。
- ・S O S E I 祭で、学習したことをよく分かるように説明していて、地元のことを勉強していると感じた。
- ・沼隈・学校内海への取組、本の朗読など。
- ・前期の子と後期の子と一緒に下校している姿を見た時。
- ・子どもが、他学年のお友だちや先生の話をしてくれるので、たくさんの関わりを作ってくれているのだと感じた。

- ・地域に出向いて課外活動をしていること。

■ 【全員】想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、そのとき保護者がされたかかわりなど。

- ・友だちとの関わり方を本人なりに試行錯誤しながら学んでいる。親としては、話を聞いて、本人が言葉にすることで思いに気づけるようにした。
- ・自分で考え意見を言えるようになったので少し安心している。担任の先生にも話を聞いてもらったり、学校の様子を細かく教えてもらったりして助かった。
- ・主体的に宿題をするようになった。
- ・友だちが増えていろいろな性格の児童がいることで、対応の仕方や考え方が大人になった。
- ・友だちとの関わりで悩む事が多いので、子どもの話をよく聞くようにしている。
- ・授業で分からないところがあった時は、授業終了後に先生や友だちに聞いてみるのはどうか提案したところ、それを実践し、苦手な教科でも発表するようになり、失敗をおそれなくなったことに成長を感じた。
- ・地域の事について自分達で研究したり、相談したりする中で、自分達で調べ学習する事の楽しさを感じている。
- ・下の学年の話をするようになった。これからも下級生の応援をしていけばいいと思う。
- ・自分で学校内に居場所を見つけようとするようになった。本人から意思表示ができるようになった。必要に応じて子どもの気持ちを先生方に伝え、学校が本人にとって少しでも過ごしやすい場所になるよう働きかけた。

■ 【全員】今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと

- ・縦割り学習を増やすなど学校の良いところを活用し、学校独自の色を出して、想青学園で学んでよかったと思える教育を望む。
- ・身だしなみが乱れている生徒がおり、影響を受けないか心配。
- ・後期課程の生徒は前期課程の生徒のお手本になれるような立ち振る舞いを心掛けてほしい。
- ・もう少し規則など厳しくしてほしい。
- ・クロームブックをあまり活用してないと思う。まだ物を大事にすると言う事が完全には身についていないと思うので、破損、紛失などが気になる。
- ・朝の登校のバスの時間に遅れて来る人がいる。
- ・英語を1年生から学ばせるべき。
- ・学業の遅れが心配。
- ・前期課程に通知表が無いこと。

■ 【3年生以上の旧内浦小・旧内海小・旧能登原小・旧常石小の児童をもつ保護者】
旧小学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなったが、どのように感じているか

- ・子どもは、クラスの仲間が増えて、いろいろと刺激を受け成長していると感じるが、先生方や保護者同士の関わりが少ないため、大人も子どもも交えて交流する機会があるといい。
- ・前の学校では低学年は同じ教室で勉強していたので集中して学べなかったし、嫌なことがあっても逃げ場がなかったので、想青学園に来て本当に良かったと思っている。
- ・大人数での学校生活で中身が薄くなり、今までのような濃い学校生活がなくなった。
- ・規模が大きくなり嫌な意味で目立つのがなくなり、安心している。
- ・少人数でずっと育ってきたから最初のうちは戸惑っていたが、他校だった子達と友だちになれて、楽しそうに過ごしている。
- ・あんまり勉強をしなくなった。

■ 【全員】コミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）について、教育活動を充実させるため保護者（地域）としてできること、また、子どもたちの学びにどのようにかかわっていききたいか。

- ・自分たちの住んでいる地域で盛んな農業、漁業、工業など自慢できることを探して調べるなど、親も一緒に学んでいきたい。
- ・先生がかかわるのが難しい場面や忙しくて人手がほしい場合など、できることはなんでもやっていきたい。
- ・もっとコミュニティスクールであることを保護者・地域に知ってもらう必要がある。
- ・参加できることがあれば、ボランティアでも参加したい。図書のボランティア、クラブ、見守り、その他行事のボランティア等。
- ・子どもたちが興味のあること、やりたい・知りたいと思うことに協力していきたい。
- ・なるべく口出しせずに見守り、能動性を大切にする。家庭が安心できる場所であるよう努める。
- ・地域行事に参加し、情報発信すること。
- ・学校や地域の要望に協力すること。
- ・まずは、学校教育と家庭教育のできること、できないこと、共有するところなどを自覚すること。家庭でしかできないことは親が責任をもって育てることが、学校教育の充実につながると思う。
- ・PTCまでではなくても、親子で学校を交えてできるイベントが増えたらいいと思う。
- ・学校での生活が上手く行くように、家での生活のなかでも、ルールを決めて教えていくこと。何かあった時、親が出るべきときは、出て解決するが、子ども同士で解決できそうな時は、そっと見守ってすぐ手を出さないようにしたい。

4 アンケート内容

◇学校生活についてのアンケート（児童対象）

名前（記入）・学年と旧学校名（選択）

このアンケートは、皆さんが、想青学園で楽しく過ごしているか、困っていることはな
いかを教えてもらうために行うものです。

これからの取組に活かしていきますので、思ったとおりに答えてください。

◆学校について

《全児童》

○学校は楽しいですか。（選択肢 4 つ）

楽しい・どちらかと言えば楽しい・どちらかと言えば楽しくない・楽しくない

★楽しい・どちらかと言えば楽しい を選択した児童への問

○楽しい理由を教えてください。（記述）

★どちらかと言えば楽しくない・楽しくない を選択した児童への問

○楽しくない理由を教えてください。（記述）

◆授業について

《全児童》

○新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しいですか。（選択肢 4 つ）

楽しい・どちらかと言えば楽しい・どちらかと言えば楽しくない・楽しくない

○自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しいですか。（選択肢 4 つ）

楽しい・どちらかと言えば楽しい・どちらかと言えば楽しくない・楽しくない

○「分かった」「できた」と実感することがよくありますか。（選択肢 4 つ）

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

○授業について、思いや考えがあれば、自由に書いてください。（記述）

◆義務教育学校について

《全児童》

○1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがありますか。（選択肢 4 つ）

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

★よくある・どちらかと言えばある を選択した児童への問

○いいなと思う理由を教えてください。（記述）

★どちらかと言えばない・ない を選択した児童への問

○いいと思わない理由を教えてください。（記述）

○想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学校生活の中で実感すること
がありますか。

(選択肢4つ)

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

★よくある・どちらかと言えばある を選択した児童への問

○ある場合は、そのエピソードを教えてください。(記述)

◆再編について

《3年生以上の児童》

○想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したことな
どを教えてください。(記述)

○今、困っていることがあったら教えてください。(記述)

《旧内浦小・旧内海小・旧能登原小・旧常石小(3年生以上)の児童》

○前の学校の時よりも学校の規模(集団規模)が大きくなって(友だちの人数が増え
て)、どのように感じているか教えてください。(記述)

◇学校生活についてのアンケート（保護者対象）

名前（任意）・子どもの学年と旧学校名（選択）

2022年度（令和4年度）に開校した想青学園は、子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いを大切にしながら、一人一人の内発的動機に基づいた学力（認知・非認知能力）の向上を追求し、多様な友だちと学び合える環境を活かした授業づくりに取り組んでいます。

子どもたちの様子や保護者の思いを把握する中で、課題への対応など今後の取組に活かしていくため、今年度もアンケートを実施します。

いただいた御意見は、アンケートの目的以外には使いません。御協力よろしくお願いいたします。

◆学校生活について

《全保護者》

○子どもは学校生活を楽しく過ごしていますか。（選択肢4つ）

楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしていない・楽しく過ごしていない

★楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている を選択した保護者への問

○楽しく過ごしていると思う理由を聴かせてください。（記述）

★どちらかと言えば楽しく過ごしていない・楽しく過ごしていない を選択した保護者への問

○楽しく過ごしていないと思う理由を聴かせてください。（記述）

◆教育活動について

《全保護者》

○学校の教育活動（授業、行事等の取組）について、良いと思うことや課題と思うことなどを教えてください。（記述）

- ・良いと思うこと
- ・課題と思うこと

◆義務教育学校について

《全保護者》

○1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがありますか。（選択肢4つ）

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

★よくある・どちらかと言えばある を選択した保護者への問

○いいなと思う理由を教えてください。（記述）

★どちらかと言えばない・ない を選択した保護者への問

○いいと思わない理由を教えてください。（記述）

○想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、これまでに感じられたことがありますか。ある場合は、そのエピソードを教えてください。（記述）

◆再編について

《3年生以上の児童の保護者》

○想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、そのとき保護者がされたかかわり（応援や励まし、教員への相談）などを聴かせてください。（記述）

○今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいことがあったら教えてください。（記述）

《旧内浦小・旧内海小・旧能登原小・旧常石小の児童（3年生以上）の保護者》

○前の学校のと看よりも学校の規模（集団規模）が大きくなりましたが、どのように感じているか聴かせてください。（記述）

◆コミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）について

《全保護者》

○想青学園は、コミュニティ・スクールとして、学校と地域が連携・協働し、学校教育目標「学びあい 育ちあう」のもと教育活動を推進し、子どもたちのより良い成長を促していきます。今年度も学校運営協議会において、SOSEI 学の充実のために、意見や提案を出し合いました。

・教育活動を充実させるため、保護者（地域）としてどんなことができると思いますか。また、子どもたちの学びに、どのようにかかわっていききたいですか。（記述）